2024年4月22日、10:00～12:00～

**京都面白大学　未来短歌創造学部　開講鼎談**

未来短歌創造学部長：津城寛文（日守麟伍）

１、自己紹介・業績紹介

昭和31（1956）年夏、鹿児島県口永良部島生まれ、次男（三男）

小・中は屋久島、高校から鹿児島市、甲南高校（旧二中）。高校2年の夏『罪と罰』を耽読、成績急降下。ぎりぎり復活。

大学から上京、東大理科Ⅱ類の4年間は乱読。リルケ『マルテの手記』、カフカ『日記』の「観察」の応用。文学体験のピークはムジール、『特性のない男』『三人の女』『黒つぐみ』。

モノログ小説『呟音』試作。夢日記、『無き乙女の語りたる指話』→『南島夢語*Dreaming in Southern Islands*』（未完、継続中）

農学部林学科（＋研究生）3年間。夢は森番。「チャタレイ夫人か？」（副査コメント）。ラジネーシ愛読、五井昌久、本山博両師に心酔。在家の座禅会、暁天座で心不全？　数年間、心臓神経症。1、2度、急進して「近死」。「自力」の機根にあらずと痛感、宗教的には「他力」に安堵。「実存的」不安はなく「実生活」の不安。

大学院から宗教学。神道を対象、「鎮魂」をキーワード。修士論文→『鎮魂行法論』『折口信夫の鎮魂論』（1990）

教育・研究として、宗教研究では「社会的宗教」と「他界的宗教」の二焦点。日本研究では深層（→頂点）文化論、古語短歌実作。

２、詩歌創造の問題の発見とその要点――「実作」と「理論」

２－１実作（古語短歌・和歌⊂短歌⊂詩歌⊂文芸⊂芸術）

日守麟伍『古語短歌――日本の頂点文化』（2019）作品編・解説編

恋歌、叙景歌（「夏歌」多い。高温多湿の雰囲気の懐かしさ）、「夢歌」「祈歌」（夢、祈りの実感）『くりぷとむねじあ歌日記』（2019）

２－２理論（歌論⊂詩論⊂文学論⊂芸術論）

日守麟伍の特殊な歌論――アトモスケープの詩学（津城、2021、『深層文化から頂点文化まで』6章）「なぜ叙景歌人なのか？」

恋愛詩人、警世詩人、社会詩人、文学史詩人、叙事詩人、叙景詩人など、詩（人）のタイプ、他界と社会、受動と能動、内向と外向

☞「吟遊詩人」鎌田東二（プレゼンテーションのスタイル）

預言者……「他界」からの警告、「社会」への伝達

☞「他界」を前提としない社会批評・文明批評の詩（⊂芸術）

観照家……他界・自然からの受動、社会での内向（詩の発信）

自然神秘主義……自然（他界」の肌）からの受動、自然との接続

恋愛神秘主義……他界からの受動、他界との接続　☞ただの恋愛詩

☞「狂気内包性思想」としてのヘルダーリン、アルトー（加藤敏）……他界の圧倒的なリアリティに侵襲された自我・自己の抵抗。ぎりぎりの状態で芸術表現、持ち堪えられなくなると自我崩壊。

３、問題の再考――私個人にとっての「リアリティ」

３－１リアリティ――人との共有、自らの実感、超越・究極の体験

耳目に触れ、心に触れ、手に触れ、予感される（日常から非日常までつながる「六根」「識」を通した「現象」「色」の）実感←→究極的実在との接触・接続の超越的な体験

俊成の「空・仮・色」三諦理解。色の享受、仮の自覚、空の予感。

「予感」（ミュラー、有限なる人間は「無限なるもの」を知りえないが、圧力を感じる。「予感」）

３－２実感の回路――「観察」と「夢」、幻覚であれ幻想であれ

「実相観入」（斎藤茂吉）、「写生」（正岡子規）

カフカの『観察』、日常風景の細部や全体の観察

ムジール『特性のない男』「白昼の神秘主義」→草稿（夏の日の息吹き……）←ブーバー『忘我の告白』（1909）

ヘンリー・ミラー、花が咲いている、それを見つめる、「花が咲いている」と書く、それが強烈に感じられるのは不思議だ

ドストエフスキー？　夢の中ではすべてが生々しく、思い出すと生々しさが薄れるが、生々しかった記憶は残る

さめ際の　夢に潤ふ　人も花も　目覚めも果てに　影薄れゆく（麟伍）

夢野久作『あやかしの鼓』江戸川乱歩の留保付きの評価、『押絵の奇蹟』への絶賛

４、今後の課題

芸術実作と芸術理論

４－１作品の自律性

「第二芸術論」（桑原武夫）、俳句、和歌・短歌批判の衝撃

詞書などなしには、作品そのものが自律しない。←→「独立した作品」という、近代文学、西洋文学にもありえない見果てぬ夢

「歌の円寂する時」（折口信夫）、自己反省を含む同業者批判。作品の技法の競い合い←→歌人・詩人の生き方の問題

４－２作品の解説、観賞、鑑賞教育　→自己理解

Q「なぜ作者はこんな文芸作品を？」……「人と作品」「風土と作品」「作者の生涯」「影響関係」というテーマの不可避性

エズラ・パウンド、古典の暗黙自明の引用を多用、鑑賞には（東西）文学史の知識、文脈が前提　→本歌取りの再評価

Q「なぜ自分はこのジャンルを？」……「和歌⊂短歌⊂詩歌⊂文芸⊂芸術⊂美的活動⊂精神活動⊂生産活動⊂人間社会⊂生命⊂存在全体⊂存在の彼方⊂究極？」のどこにいるのか？

現時点の個人的A「叙景歌を中心とした和歌を詠むことで、今この地上に生きる実感を、より深く幸せに味わうことができている」

「学部長」から「学部生」へ「生きている実感を、より深く幸せに味わえるような創作活動を、この学部でみつけてください」